

発行人 → 医療法人社団
すんとおる

沼津市高沢町6-1
TEL → 055-922-8855
URL → <http://www.sunto-seiker.jp>



みなさん こんにちは😊

梅雨の時期になりました☔ ジメジメする日は嫌ですね☹
食中毒が流行りやあるので、手洗い・うがい・食品管理など気をつけましょう。また、昼間暑い日も多くなってきたので、熱中症対策も忘れずに!! さて、今日は院長からのお話です。

リウマチ治療について 院長 清水学

梅雨の季節がやってくると、体の節々が痛くなってくる人々の数が増えてきます。湿度とか低気圧の影響で、関節を患っている方々の体から悲鳴があがってくるのでしょう。そのため、日本リウマチ学会・財団は6月を「リウマチ月間」と定め、リウマチ性疾患の啓蒙・治療を提唱しております。

関節リウマチは、科学の進歩した現代においても原因不明です。原因がわからないのであれば、根本的な治療方法は未だに存在しないと言わざるを得ません。現在利用できる治療方法は、あくまで「病勢を抑え、骨・関節破壊を抑制する」事に過ぎません。広い意味では、

未だに「対症療法しか存在しない」と言えるかもしれません。

症状・病勢を抑える薬に関しては、歴史的に色々な薬が現れました。古くはアスピリン。現代では各種消炎鎮痛薬。戦後にス

テロイド剤が出現しました。1980年頃からは、化学的に合成された抗リウマチ薬。21世紀になってからはバイオの力で作られた生物学的製剤が治療に使われるようになりました。いずれの薬も副作用がありますので、その効果と副作用の得失を見極めたから、適時に使

用しなければなりません。

関節機能を維持するためには、物理療法と運動療法、すなわちリハビリテーションも重要です。その主な目標は、関節拘縮予防と筋力増強です。手指の巧緻性改善を目標とした作業療法も含まれます。

骨関節破壊がひどくなってしまうと、手術が必要となり、リウマチの手術は多くが人工関節置換手術でした。ただ、人工物の手術は感染とか緩みの問題もありますので、できれば過ぎけた方が望ましいと考えます。

現代のリウマチ治療の考え方は「骨関節破壊が生じる前に、強い薬を使って病勢を抑制する」に変わってきました。血液検査、一般レントゲン検査、超音波診断などを利用して可能な限り早期に関節リウマチの診断をつけ、患者さん個々の病状・事柄に合わせた治療方法の組み合わせにより、リウマチは良好にコントロールできるようになってきました。



重症リウマチ患者さんの手

リウマチ患者さんの足趾